第４回　西条市地域公共交通活性化協議会
議事要旨

日時：平成３０年２月２１日　１０：００～
場所：西条市役所本庁　５階　５０２会議室

１　開会

２　会長あいさつ

・昨年７月副市長（会長）に就任した。
・より利便性の高い交通体系に再編するため、皆さまのお知見やお力をいただきながら、より良い公共交通を目指していきたいと考えており、ご協力をよろしくお願いしたい。

３　協議事項

(1)今年度事業の進捗状況について

○会長
・今年度事業の進捗状況について、株式会社バイタルリードから説明をお願いする。
○バイタルリード
＜資料１　説明＞
○会長
・意見や質問はないか。
○社会福祉協議会
・6 ページの「⑨利用の際、困った点」で留守番電話に予約を申し込んだ場合の対応について。予約は有効か、無効か。
○バイタルリード
・最終的には伝わったと聞いている。タクシー組合の方に確認をしていく。
○西条市医師会
・19 ページの年間輸送人員の推移でほとんどの路線が減少傾向にある中、壬生川線が平成 27 年度から平成 28 年度にかけて約 60%位の上昇がある。これは対策の結果か。
○バイタルリード
・楠窪線の一部の系統が壬生川線に統合されたり、三芳線の系統が一つ減少といった路線の再編で集計上増加したというのが現状である。
○松山大学　甲斐准教授
・まず 1 点目、調査のデザインについて、利用者数や沿線上の人口が非常に少ない中、さらにその人たち全員に回答をいただけるわけではない。PDCA に繋がるデータを収集しようと思ったら、もう少し住民の動態を捕捉する必要があり、考え方を変えて、移動の際の目的地となる病院や商業施設で補足をして、その方達がどのような交通手段で移動されているのか、移動の時間帯はどのようになっているのか、どのような行動をされているのかを捕捉した方が、次のアクションに繋がるデータが得られるのではないか。
・車両の更新時期の資料について、運転手の人手不足も重要な課題なので、運転手の人数や年齢構成等の現状も把握しておいた方がよいと思う。よりそいタクシーのアンケート調査で配布枚数と回収枚数でずれがある。この回収枚数と、設問ごとの回答数の N 値にもずれがある理由を教えていただきたい。これは集計で無回答を除いたためにそうなったのかと思われるが、無回答や有効回答でないものも併せて入れると、回答者の像が見えてくる。おそらく 80 代や 90 代が非常に多いということになると、問題を飛ばして回答していることも透けて見えることがある。

・利用促進チラシについて、アクションにつながる情報発信をして行く必要がある。その場合、具体的に利用のモデルコースのようなものがあれば、時刻表と併せて「こうしたら公共交通が使える」という納得のいく情報の出し方をすることで「もう少し使ってみようかな」ということになる可能性が出てくるのではないか。あとは、生活の中で移動をするという観点で考え、行政も他部署との連携を密にとり、交通事業者も、行き先となる商業施設や病院との情報共有を密にしていくことで何が必要なのかということが見えてくるのではないか。

○バイタルリード

・バスを実際に利用されている方の利用状況を把握するためには、実際に乗ってみなければわからないということもある。ショッピングセンター等でヒアリングをするという方法もある。しかし、バス停でバスから降りてこられる方に対してヒアリングをすることは、それらのサンプルをどのくらい集めるのかということと、かなりの時間を割くことで一般的な需要の整理はできると思うが、その後どうつなげるかということに関しては、それぞれ利用されている路線も違うということになれば、ダイレクトに路線の再編にはつなげにくい。昨年、一昨年の各地域住民へのアンケート調査や公共交通不便地域へのアンケート調査も実施しており、それらを行ったうえでの部分的な調査ということでもある。運転手の情報は、今回の業務でそこまでは調べていない。3 ページの回答者属性の「N=16」は間違いで、正しくは「N=24」となる。チラシ等、ご意見等があればそれらを踏まえて適宜変更していきたいと考えている。

○会長

・ご指摘を踏まえて事務局とも検討したうえで判断するということである。

○松山大学　甲斐准教授

・自動車で移動している人たちに、公共交通に乗り換える回数を増やしてもらうための調査方法やデータ収集、情報の発信方法、施策の組み立て方を事務局側とすり合わせていく必要がある。

○会長

・後日、事務局と協議検討させていただきたい。

○社会福祉協議会

・国の方でタクシーにも国鉄のような定期券を作るという案が出ているが、バス停まで遠い人等がタクシーの利用が定期券化出来るのであれば、もっと利用度が上がるかと思う。そのような計画の予定は市の方でどのように考えているか。

○事務局

・タクシーについて、市の方では高齢者を対象に利用助成等を行っている。その流れで公共交通空白地域をカバーするためにデマンドタクシーを運行し利用してもらう取り組みも、モデル地区を設定して行おうと考えている。

○会長

・「年間負担金制」とは定期券のようなイメージの乗合タクシーという趣旨で、モデル地区で検討中という理解でよろしいか。

○事務局

・はい。

○副会長

・8 ページの「山間部交通不便地域移動助成事業」について、もっとわかりやすい表現に整理して欲しい。また、3,000 円の上限には何か意味があるのか。この有効期限も外してもらえないか。チラシの裏面で「たまには公共交通を利用してみませんか？」という文言があるが、「たまには」は消していただいて、「いつも乗って下さい」という表現の方が積極的で

よろしいかと思う。検討いただきたい。

○事務局

・合計金額 3,000 円までという設定は、山間部から街中までのタクシー料金が約 3,000 円～4,000 円であり、街中までの 1 乗車の運賃として 3,000 円までとして考えている。年間 12,000 円としているが、これについては 1 年間での外出機会の創出に使っていただきたいということで年度の設定をさせていただいている。

○松山大学　甲斐准教授

・「山間部交通不便地域移動助成事業」について、市役所側で対象の把握をすることは可能だと思うので、対象者にタクシー助成券を送ってしまって使うかどうかは対象者に任せるという形にしてはどうか。

○事務局

・対象者をこちらで把握することは可能であるが、8 ページの「④市税等の滞納がない世帯」という条件は、市役所側で直接調べることができない。調べるための承諾を得ることも含めて申請していただくという形を取らせていただいている。対象者の方に申請書等を送らせていただいき周知はしている。

○会長

・チラシ、利用方法の表現などを検討いただきたい。
荒川地区は利用がない状態だが、維持した場合も、休止した場合もコストはかわらないのか。

○事務局

・運行した場合に経費を支払う契約となっている。運行していない時、支払いはない。

○会長

・17 ページの国庫補助の「○」と「△」の違いは何か。

○バイタルリード

・路線全体が国庫補助になっている路線は「○」、フィーダー補助という部分的な国庫補助が入っている路線については「△」としている。

○会長

・22 ページの収支比率に関する所で、何%以上が目標であるとか、一般的な基準値のようなものはあるのか。

○バイタルリード

・明確な数値はないが、私共が考えたときに地域のコミュニティバス等は 20%位、4 条の自主運行路線については 50%以上が一つの目安と考えている。

○会長

・23 ページの瀬戸内運輸やせとうち周桑バスの 20%を切っている路線については何らかの対応が必要ということで、禎瑞線に関しては 31 ページの改善案のようなものが 3 点記載されているが、こちらを改善すればどのくらいのインパクトがあるというようなシミュレーションはされているのか。

○バイタルリード

・そこまで細かいシミュレーションまでは行っていない。

○会長

・ここを改善したら 20%は超えるだろうという趣旨で書かれているという理解でよろしいか。

○バイタルリード

・これは収支率を上げるというよりも、利便性をどうすれば向上させられるのかということをメインに考えている。そのうえで車両の小型化や運行の効率化を図ることによって経費を下げる方法はあるが、具体的にそれを何便にして、どう走らせて経費が今と比べるとど

うなるかという細かいシミュレーションまでは行っていない。

○会長

・25 ページを見ると「非効率な路線となっている」、「運行の効率化が課題となっている」と書かれているので、利便性の向上を図ることと、運行の効率を図ることは両方課題としてあるのであれば、売り上げを伸ばす方と経費を削減する方だと思うので、もれなくダブりのない対策として適切なのではないかと感じた。それとインセンティブの事例については西条市でこういったものを今後検討していくべきではないかというような提言はあるのか。

○バイタルリード

・これについては、せとうち周桑バスの路線について、みなし 4 条といわれる形で 4 条路線であり、かかった費用は全面的に市が補填するという形になっている。その中でこのインセンティブを導入するかどうかは、市の判断になろうかと思っている。今後デマンド型タクシーを運行することが広がってくれば、そういうところについては何らかのインセンティブを設けることで、運行事業者自体が、お客さんを積極的に獲得していくように働いていけば上手く回っていくのではないかと思っている。

○会長

・最後に 36 ページの再編案の内容については、これから皆さまや関係者の方々ともお話していきながら、今後も調整等によっては内容が変わり得る状況で、ひとまずの案という理解でよろしいか。

○事務局

・これから事業者さんや住民の方も含めて協議を進めていく中で変更などは生じてくるという形でお考えいただきたい。

○四国旅客鉄道

・2 点ほどお礼を申し上げたい。1 点目は西条駅のバリアフリー化で、多大なご協力をいただいた。もう 1 点目は伊予三芳駅のコンパクト化についても多大なご協力をいただいた。本日の議題は大体バス関係の事であったが、西条市内は一番大きな駅として伊予西条駅がある。この駅は 1 日当たり 1,500 人位の利用があり、その内 1,000 人が定期券を利用して通勤、通学をしている。西条市内の駅は、ほとんどが通勤、通学利用のお客様で、今後の少子高齢化と人口減により通勤、通学利用のお客様が減少していくと、我々の経営も厳しくなるという状況になっていくので、これからは交通結節点の機能強化ということで、上手く情報を共有してお客様の使いやすいバスと鉄道のネットワークを作れたらいいと考えている。ダイヤ改正等、今後はこのような情報共有の場を作っていただければ非常にありがたいと思っている。持続可能な公共交通をどう作っていくかは、交通のキャリアだけで解決する問題ではないと思っている。一番大事なのは公共交通活性化協議会と立地適正化の両輪で考えないと難しいと思っているので、先ほど会長がおっしゃった通り、ずっと税金を使っていくのは問題があると思っている。必要なところには入れなければいけないが、公共交通に転換する動機づけをどうしたらいいかを真剣に考えていきたいと考えているので、またいろいろご意見いただけたらありがたいと思っている。

○会長

・ダイヤ改正等の情報共有の場については、いただいたご指摘を踏まえて事務局で検討したい。

・その他、意見や質問はないか。

＜なし＞

・それでは、いただいた意見、質問等については反映させるべきものや検討すべきものも含め事業を進めていくということで承認いただけるか。

＜委員から承認の拍手＞

・修正すべきところは修正したうえで承認するということで決した。

(2)その他

○会長

・（１）コミュニティ助成事業を活用した路線バス車両の購入について、事務局から報告をお願いする。

○事務局

＜資料２　報告＞

○会長

・意見や質問はないか。

○副会長

・お年寄りで足が不自由な方のためにもノンステップバスの導入を早くお願いしたい。そういうことを車両の更新を兼ねた事業内容でお願いできたらと思う。

○会長

・その他、意見や質問はないか。

＜なし＞

・（２）JR 伊予西条駅のバリアフリー化について、事務局から報告をお願いする。

○事務局

＜資料３　報告＞

○会長

・意見や質問はないか。

○副会長

・改札を通る際に、音声でエレベーターの案内をしていただきたい。待合室にもそのような掲示をお願いしたいと思う。細かな配慮をお願いしたい。

○会長

・他に意見や質問はないか。

＜なし＞

・以上が事務局からの報告事項となる。協議事項以外で意見や質問、コメント等はないか。

○松山大学　甲斐准教授

・中山間地域の交通空白地域で、移動に公共交通を使うパーセンテージをこれから上げたとしても母数が減っていくので、その意味では採算は元からとれない事業ではあるが、ロスを少しでも減らすためには、貨客混載という発想も必要になってくる。長期的な難しい課題になると思うが、長期的な視点としてお含みおき頂きたい。

○会長

・その他、意見や質問はないか。

＜なし＞

・なければ予定していた本日の協議事項は全て終了したので、進行を再び事務局に戻す。

○事務局長

・本日、承認いただいた内容に従い、業務を進めていく。変更等があり承認を得る必要が生じたときは、適宜協議会を開催させていただきたい。

以上をもって、本日の会議は散会する。